

慧光

Echo No. 179

令和8年 正月号

院寺寺
峰福林禅
一禅禅宗
* * * *
羽村臨濟会

次の八十年で仏国土を

昨年の令和七年は昭和百年、大東亜戦争の戦後八十年の年でした(ちなみに、日露戦争から百二十年の年でもありました)。なかでも戦後八十年が最も注目され、多くの論説が世に出ました。八十年が速いか遅いか、人によって様々ですが、未だに敗戦の影響は残っています。

今や戦前の空気を知ることが至難の業となつていますが、多くの人は何となく暗く遅れた時代だと思つていようです。これはマスコミと戦後教育の賜ですが、本当にそうだったのかには、疑問符が付きます。山本夏彦が「誰か戦前を知

らないか」という本を書いています。戦前の本当の空気を知る一助となります。

例えば、硫黄島で米軍から日本を守った栗林忠道、ソ連軍から北海道を守った樋口季一郎、戦後の台湾を中国共産党軍から救った根本博などは、相当高度な精神教育を受けていなければ、決して生まれない勝れた人材です。果たして八十年後の現在の教育で、自分の命を犠牲にしてまで他者のために尽くす、菩薩のような人を輩出できるのでしょうか。

現代を歴史的に見れば、神道と仏教に培われてきた日本人の心が、八十年かかっ

て消えようとしているのです。GHQに仕組まれたとは言え、易々と連綿たる歴史と伝統を捨ててしまったその報いが、今日の無残な姿となつていいるのです。それは神にも仏にも関心がなく、愛国心も慈悲心も道徳心もない政治家や官僚やメディアに如実に顕れています。

先祖供養を専らとする寺院以外にも、日本には天照大神を祀る伊勢神宮、菅原道真を祀る天満宮、徳川家康を祀る東照宮、明治天皇を祀る明治神宮、戊辰戦争以来の戦死者を祀る靖国神社など、先人を神として祀る神社が全国にあります。

日本列島はまことに精神性に富んだ土地なのです。このような尊い土地に住まわせてもらつている有難さを、我々は改めて噛みしめるべきでしょう。この貴重な国土を無神論で蓋つてはいけません。八十年で失つた精神を次の八十年で取り戻したいものです。

(禅福 泰文)